

ライオン 日立と健康診断データを解析 口腔・全身健康に寄与する可能性を確認

ライオンは、日立製作所日立健康管理センタ(茨城県日立市)と協働で、職場における歯科健診の導入が従業員の口腔・全身健康に及ぼす影響について調査研究を実施した。

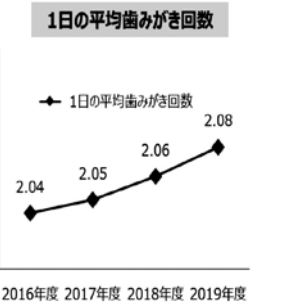
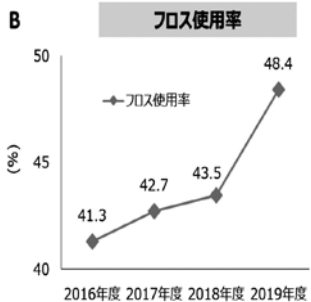
2016年10月から2020年3月までの約4年間、日立健康管理センタで人間ドックを受診した従業員(年間約1万3000名)を対象に、歯科健診を実施し、そのデータを解析したところ、歯科健診の導入により従業員のオーラルケア行動の実施頻度が経年で増加し、口腔の健康状態が改善することが明らかとなった。

また、唾液検査指標と注目が集まる中、「骨密度」が注目されている。歯周病が全身疾患悪化の一因となる可能性が報告され、口腔健康の維持増進による全身健康維持に注目が集まる中、「骨密度」が注目されている。

万人以上の従業員に対して人間ドックを実施している日立健康管理センタと協働で、職場における口腔と全身健康状態との関連性の解明に向けた調査研究を実施することになった。

同センタでは、2016年度から受診項目に歯科健診を導入しており、検討では、職場における歯科健診の実施が従業員の口腔状態・全身健康状態に及ぼす影響について検証した。

2016～2019年度に取得したオーラルケア行動に関する問診データを解析した結果、健診導入後から経年的にオーラルケア行動(1日の歯



●オーラルケア行動変化

率に關しても同様に歯科健診導入後から経年的な増加を確認できた。定期的に歯科健診を受診し、さらに自身の口腔内の状態をSMTや口腔内カメラで視覚的に把握することが、従業員のオーラルケア習慣の向上につながったものと考えられる。

また、2016～2019年度に取得した唾液検査項目のうち、歯ぐきの健康状態(唾液中の白血球値)の実施頻度が増加していた。また、歯科通院

度に関する問診データを解析した結果、健診導入後から経年的にオーラルケア行動(1日の歯

女性の朝の美容行動に関する実態調査結果を発表

ナリス化粧品

ナリス化粧品は、2022年12月19日～2023年1月16日にかけて、冬の朝の美容行動について、全国の20～59歳の女性2202名に実態調査を行った。特に日常生活の行為の一部と考えられる洗顔については、20代女性の半数が毎朝顔を洗っていないことが判明する

など、洗顔の重要性が理解されていない実情が垣間みえた。

朝の美容行動が大きく異なる。50代前半のうちに、最も頻度が高いのは「洗顔」だが、選んでいるが、20代前半では48・0%と半数を切り、20代後半でも56・3%と6割に満たない割合で、若年層ほど毎日洗顔している人の割合が少なかった。反対に「洗っていない」は傾向がみられた。

また、25～44歳の層では、全ての層で洗顔を全く行っていない人が1割を超えていることがわかった。洗顔の頻度と、美容への興味レベルを掛け合わせてみると、「美容にとっても興味がある」と、毎朝洗顔している人の割合

人の90・5%が毎朝スキンケアもしていることがわかった。また、洗顔は毎朝ベースメイクも行っていない人のうち約半数(49・4%)はスキンケアも行っていないこともわかった。

また、洗顔をしている人、スキンケアを毎朝している人の約9割(93・5%)は毎朝ベースメイクも行っていた。

資生堂

資生堂は、2022年5月12日～6月16日にかけて、世界9エリアで、合計13500名(男性n=5099、女性n=11000)の「がん罹患経験者」を対象に意識調査を実施した。がんサバイバーに向けた取り組み

前回は2021年に3ヵ国(中国、ドイツ、日本)で実施していたが、今回は初めて8ヵ国9エリア(アメリカ、中国、中国(四川省)、ド

のことにより84・8%が「気持ち落ち込んだ」(35・3%)、「物事に消極的になった」(29・6%)、「治療に後ろ向きになった」(19・9%)など、気持ちや行動に影響を与えていることがわかった。

体験した変化で顕著なものは、「頭髮の脱毛」(59・3%)、「肌の色変化」(43・9%)、「眉の脱毛」(31・9%)、「まつ毛の脱毛」(26・1%)の順となった。

肌色の変化は、「黒ずみ」が40・3%、「茶色」が30・3%、「青くすみ」が29・3%、「しみが濃くなった」が26・2%となっていた。

日本では他エリアと比較して、外見変化が現れたときに外見ケアを相談しにくい傾向(全エリア中最下位、全体約5割、男性4割強、女性5割超)が見られ、患者が外見についての悩みを周囲に相談しやすくなる社会的環境づくりが必要不可欠であった。

こうした外見変化に関する相談相手の上位は、医療従事者(医師66・7%、看護師37・5%)となっており、家族が29・1%で続き、がん患者への外見ケアの支援には医療従事者からの情報提供の重要性が示された。

外見ケアに関する情報の入手方法は、「誰かに相談」が71・0%、「インターネット」が62・3%となっている。

今回の調査結果は、がんサバイバーに向けた取り組みの必要性を80・9%の人が約8割(79・1%)にのぼった。